

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	231人
② 数学	230人
③ 理科	231人

5 留意事項

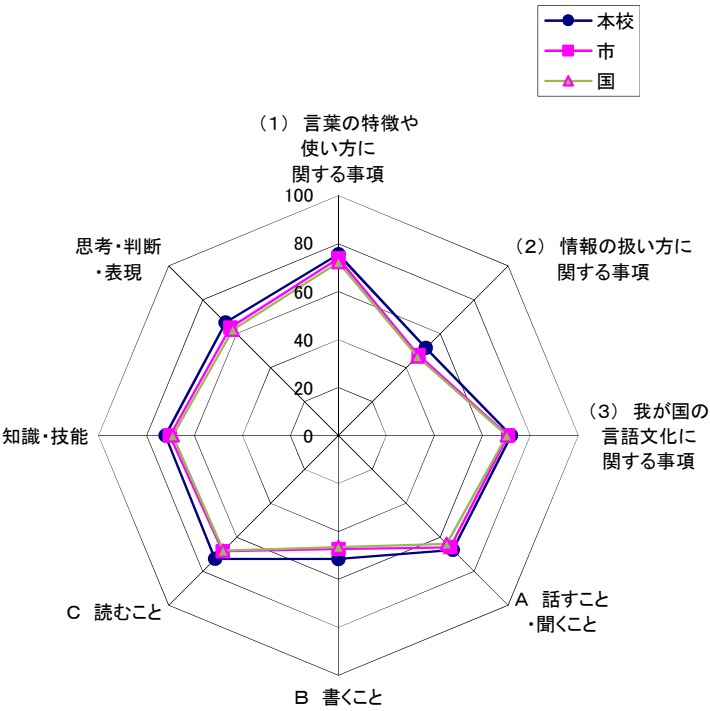
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.5	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	51.5	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	72.0	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	67.5	65.9	63.9
	B 書くこと	51.5	47.3	46.5
	C 読むこと	72.7	68.3	67.9
観点	知識・技能	72.1	70.2	69.0
	思考・判断・表現	66.6	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

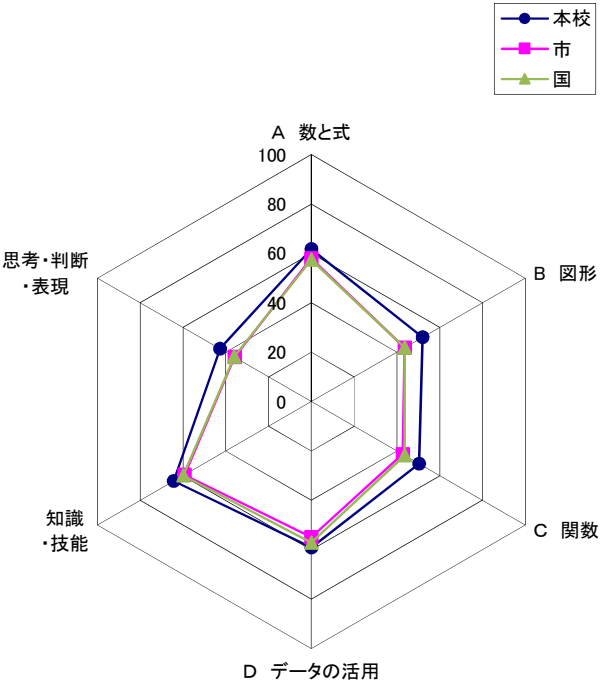
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○正答率は全国平均を3.3ポイント、市平均を1.7ポイント上回っている。 ●「文脈に即して漢字を正しく書く」設問2問のうち1問は正答率が全国平均を1.4ポイント下回っている。	・授業の中で、正しい文章の書き方や定期的な漢字テストなど、実際に筆記具を用いて文字を書くことができるような記述の機会を改めて確認しながら、言語力の向上を踏まえた授業作りに努めていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○正答率は全国平均を5.0ポイント、市平均を4.2ポイント上回っている。情報を理解しながら、自分の考えをしっかりとまとめ、根拠を明確にしている。	・ICTを用いた授業において、生徒自身がメディアリテラシー能力を身につけることは必要不可欠である。情報の受取手として、情報の本質を正しく見抜くためにも、基本的な文章をしっかりと読み取る読解力を付ける指導を今後も行っていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○全体的な正答率は全国平均を1.8ポイント、市平均を1.3ポイント上回っている。 ●「行書の特徴を踏まえた書き方」を問う設問については正答率は全国平均を2.2ポイント、市平均を3.1ポイントそれぞれ下回っている。	・行書独特の運筆や書き方に苦手意識を持つ生徒が多い。苦手意識を払拭するためにも、正しい字形や点画の変化、連続などの基本パターンを理解させ、自分の名前を行書で書くなど、生徒に興味を持たせられるような工夫を取り入れていく。また、授業時のノート記入などにも活用させ、行書を身近なものとして捉え、日常的に使うことができるよう指導を加味していく。
A 話すこと・聞くこと	○全体的に正答率は全国平均3.6ポイント、市平均1.6ポイント上回っている。 ●「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く」設問については、国、県よりも正答率が高いものの、無回答率が10ポイントをこえている。	・相手や目的に応じて、自らの考えや思いを、相手にわかりやすく伝えられるような表現の工夫を話し合わせる。 ・話の内容を正しく聞いたり、表現の仕方を評価しながら聞き取るなど、聞き取りテストや話し合いの機会を定期的に設けていく。
B 書くこと	○正答率は全国平均を5.0ポイント、市平均を4.2ポイント上回っている。情報を理解しながら、自分の考えをしっかりとまとめ、根拠を明確にして書くことができる。	・根拠を明確にした文章力を付けるためにも、授業において、文章を書く機会を多く設定していく。また、文法による言葉の使い方と、正しい文章の書き方への関連性に気付かせながら、文章の書き方を見て学ぶ時間を設けていく。
C 読むこと	○正答率は全国平均を4.8ポイント、市平均を4.4ポイント上回っている。 ●「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」という設問は正答率が78ポイント程と高いものの、無回答率は10ポイントをこえている。	・文脈や伏線について理解を深め、場面の展開や登場人物の心情などを捉えながら、作品を読み進めていく力を伸ばしていきたい。そのためには、朝の読書など本を読む機会を大切にするとともに、文章構成を正しく把握できるような指導を引き続き行っていく。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	61.7	58.0	57.4
	B 図形	52.0	43.6	43.6
	C 関数	50.3	42.7	43.6
	D データの活用	59.1	54.9	57.1
観点	知識・技能	64.4	59.3	59.9
	思考・判断・表現	42.7	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

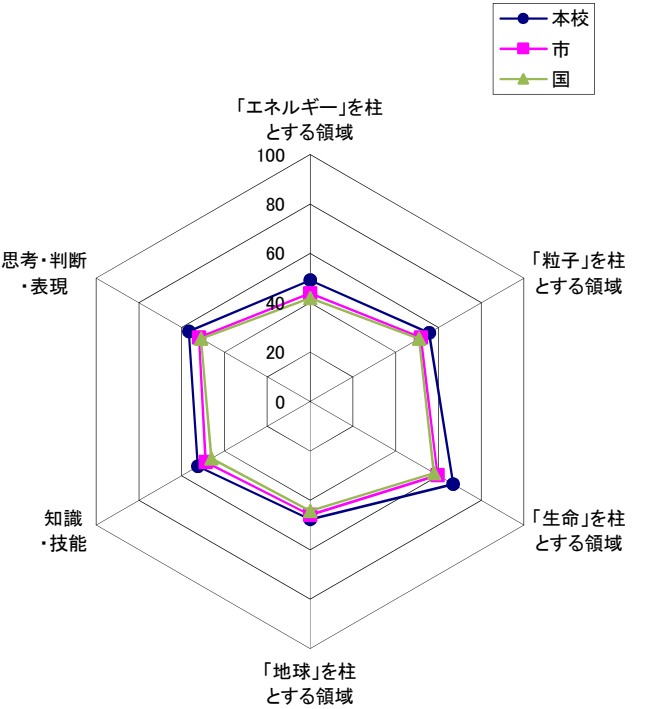
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○本領域においては、市や国の平均正答率を3ポイントほど上回っている。陽東地区の地域学校園で連携を図り、計算分野の強化を図ってきた成果だと考えられる。 ●昨年度と比較すると、市や国との平均正答率の差が小さくなっている。	・今後も継続して、地域学校園で計算分野の強化を図っていく。また、習熟度別学習を行いながら、子どもたちそれぞれのレベルに応じた指導の充実を図っていく。 ・教科書の計算方法を教え込むのではなく、子どもの気づきからどのような方法が効率的に解けるのかを考えさせて授業を展開していく。
B 図形	○市や国の平均正答率を9ポイントほど上回っている。授業で説明する場面を多く設定し、数学的な表現をする機会を多く設定した成果であると考えられる。 ●平均正答率は市や国と比較して高いが、6割に届いていない。	・今後も継続して、授業で説明する場面を多く設定し、数学的な表現をする機会を多く設定していく。また、図形の体積や表面積を求める問題は反復学習をさせ、基礎の確実な定着を図っていく。 ・正多面体など想像するのが困難な図形に関しては、実物を見せたり、触らせたりしながら辺や頂点、面の形などの特徴を捉えさせていく。
C 関数	○本領域においては、市や国の平均正答率を8ポイントほど上回っている。 ●グラフを利用して、数学的な事象をとらえ説明する問題では、正答率は高いが無回答も2割と多い。	・表、グラフ、式の関連を確認しながら、関数の問題に取りむようにする。また、基本的な知識・技能の定着を図る反復練習を行うようにする。
D データの活用	○本領域においては、市や国の平均正答率を2ポイント上回っている。	・授業での説明の場面の多く設定し、数学的な説明の方法に慣れていけるようにする。また、様々な考えがでる問題を利用して多角的に問題をとらえられるようにしていく。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	49.1	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	55.6	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	66.9	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	47.7	45.9	44.3
観点	知識・技能	52.5	48.8	46.1
	思考・判断・表現	56.7	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○日常生活の中で物体が静電気を帯びる現象についての問題では、正答率が全国よりも約20ポイント高く、生徒質問紙においても、普段の生活の中で活用できるかの肯定回答も60%と半数を超えている。 ●思考・判断・表現の問題は、全国から見れば上回っているものがほとんどだが、正答率は低い。	・引き続き、日常や将来の技術に密接に関わっていることを、授業中に触れ、身近な事象や時事的話題を取り入れた授業を行う。 ・考察する時間やまとめの時間を設け、個人やグループで思考力を使う授業を行う。
「粒子」を柱とする領域	○多くの問題で正答率が全国より7ポイント～9ポイントほど上回っているものが多く、基本的な化学反応式の問題から実験の考察から振り返りまでを問う問題も含めて、よくできている。 ●質量保存の法則について、教科書とは違う実験であったために、正答率が全国より2ポイントほど下回った。	・科学現象や法則は世界中で同じことが示せる不変的なものであり、どの実験においても成り立つことを授業の中で触れる。また、既習事項にも触れながら、学年のつながりを意識した授業を行う。
「生命」を柱とする領域	○動物についての問題の正答率が、全国より12～15ポイント上回っており、動物とその種類による共通した構造などはよく理解できている。 ●実験の不備を指摘する問題では、全国より3ポイント上回ったものの、58.0%と6割は超えてない。	・生命の実験・観察においても計画や予想・考察をする時間をしっかりと設けるようにする。
「地球」を柱とする領域	○地層の観察についての問題の正答率が、全国より8ポイントほど上回っており、基本的な知識・技能は身についている。 ●気象についての問題は全体的に正答率が低く、特に気圧の問題では正答率が全国より0.8ポイントほど下回っている。	・大きくて変化がある見づらい気象分野の事象を、視覚的にとらえやすくするために、図やモデル・映像などを用いるようにする。 ・エネルギーや粒子と密接に関係していることから、既習事項にも触れながら、学年のつながりを意識した授業を行う。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べている」の肯定回答の割合は93.8％、起床時間は93％が同じ時間であり、規則正しい生活が出来ている。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」の肯定回答割合は75.8％で県平均より7ポイント低い。塾や習い事、課題の多い少ないだけでなく、ネットで動画を見たり、ゲームをしていたりして遅くなることもあるようだ。

○携帯、スマートホン、タブレットPCの使い方については、学校での使用のルールや家庭で約束したことを守っていることがわかった。

○県平均より肯定回答の割合が上回っているのは、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある10.4ポイント」「人の役に立つ人間になりたい。4.2ポイント」などであり、

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」98.4％が肯定割合であり、生徒会を中心に取り組んでいる「いじめ根絶集会」「行動宣言」や「うつのみやいじめゼロ運動」の校内ポスターコンクールなどの取組が日ごろからいじめにどう対応するかを意識した生活につながっていると思われる。

○学習についての肯定回答割合は「読書が好き」78.4％、「新しいものを創り出す活動を1・2年の時に行っていて」80.0％、「互いのよさを生かした解決方法を決めている」89.2％など授業や学校での学習に熱心に取り組もうとしている姿がある。

宇都宮市立陽東中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1) 学習規律の徹底	・地域学校園で取り組む「学習の約束」(学習の準備・あいさつ・返事・話す・聞く)の実践(通年)	・問33「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」では、本校の肯定割合が65ポイントで、県の平均を28.4ポイント、全国の平均を27.8ポイント上回った。
(2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着	・各教科における基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着(通年)	・問43「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定割合が84.2ポイントで、県の平均を1.5ポイント、全国の平均を5.5ポイント上回った。
(3) 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	・身に付けるべき学習内容の確実な習得を目指す、単元や題材ごとに学習内容を復習する場の設定(通年)	・問44「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、肯定割合が75.9ポイントで、県の平均を2.6ポイント下回り、全国平均を1.2ポイント上回った。
(4) 個に応じたきめ細やかな指導の充実	・授業の中で身に付けさせたい学習内容をまとめたり、学習内容や思考過程を振り返ったりする場の設定(通年)	
	・互いを認め合い、協働して課題に取り組む学び合いの充実(通年)	
	・授業力向上に向けた「一人一授業」及び授業研究会の実施・基礎的・基本的な知識の定着を目指すAIDリルの活用	
	・タブレット端末を活用した個別最適化された学習の実践	
	・発達の段階や各教科の実態に応じた適切な宿題や自主学習ノートの活用(通年)	
	・学力向上の日(毎週水曜日)の放課後に行う学習支援「ステップアップ学習」の実施	

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていくことができていない生徒の割合が県の平均を下回っている。	・各教科における単元の学習計画の見直しと実践 ・タブレット端末の有効活用 ・話し合いや意見発表などの活動の充実	・単元の学習計画を生徒と共有し、単元の中で、自らの学習を振り返る場面を意図的に設定し、既習内容から新しい価値や考えを創造したり、習得が不十分な学習内容について、生徒が見直したりする活動を学校全体で共有し、実践していく。また、タブレット端末をさらに有効活用するとともに、話し合い活動等を充実させ、より主体的・対話的な学びのできる学習活動にしていく。